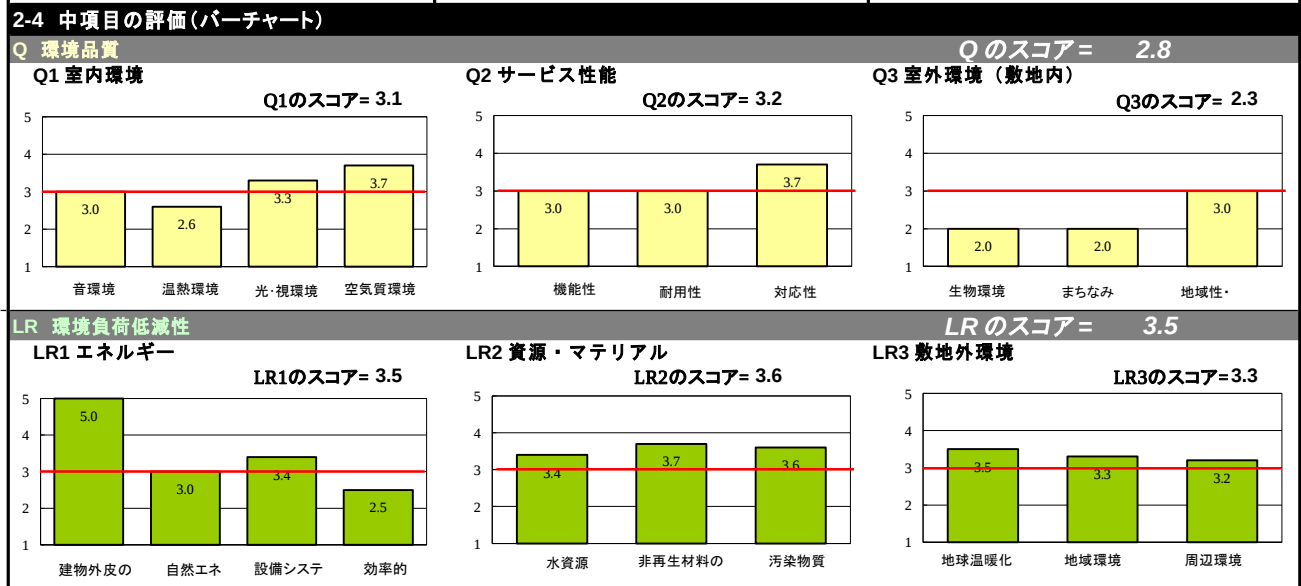
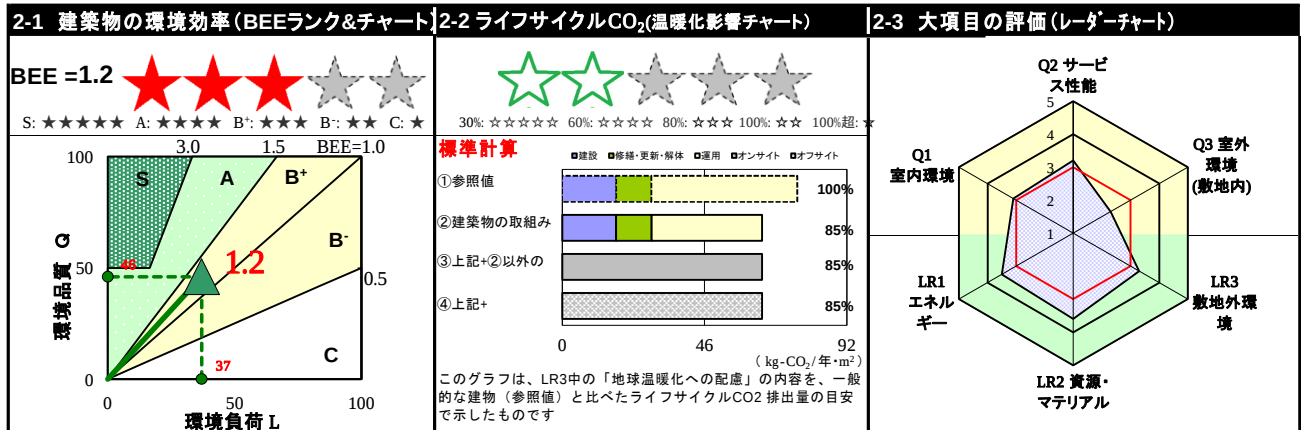
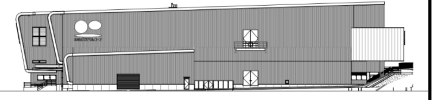


CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)枚方杉3丁目物流PJ 新築	階数	地上2F
建設地	大阪府枚方市杉	構造	S造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	30 人
地域区分	6地域	年間使用時間	4,380 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年2月 予定	評価の実施日	2025年2月25日
敷地面積	18,782 m ²	作成者	大和ハウス工業株式会社 流通一級建築士事
建築面積	5,978 m ²	確認日	2025年2月25日
延床面積	9,144 m ²	確認者	大和ハウス工業株式会社 流通一級建築士事務所 友廣 祐理



3 設計上の配慮事項		
総合 敷地内に適切な量の駐車スペースを設けている。隣地境界部に緑地を設けるなど周辺環境に配慮している。		その他 特になし。
Q1 室内環境 昼光率は2.5%以上とし自然採光を使用することで照明負荷の低減に務めている。	Q2 サービス性能 ケーブルラックにより仕上材を痛めず電気配線の更新修繕可能な計画としている。	Q3 室外環境 (敷地内) 敷地内の空地率60%以上とし、風通りの良い計画とした。
LR1 エネルギー LED照明の設置。	LR2 資源・マテリアル OAフロア等再利用できるユニット部材を用いている。	LR3 敷地外環境 光害ガイドラインのチェックリストの過半を満たしている

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

【建物概要】 建物名称		(仮称)枚方杉3丁目物流PJ 新築工事							
建設地		大阪府枚方市杉							
用途／区分		工場 事務所							
【評価結果】	CASBEE 総合評価	★ ★ ★ ☆ ☆						B+	
①	CO2削減	🌸 🌸 🌸 🌸 🌸 🌸						4	
②	みどり・ヒート アイランド対策	🌸 🌸 🌸 🌸 🌸 🌸						3	
③	断熱性能	🌸 🌸 🌸 🌸 🌸 🌸						5	
	建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル 住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分	評価対象外						評価対象外	
④	エネルギー消費性能	🌸 🌸 🌸 🌸 🌸 🌸						3	
	建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル 住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分 非住宅建築物又は 複合建築物の非住宅部分	評価対象外						評価対象外	
⑤	自然エネルギー直接利用	★ ★ ★ ☆ ☆ ☆						3	
	再生可能エネルギー	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—		—
	利用施設の導入状況	太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—		—
	エネルギー消費量の報告							報告しない	
【評価項目】									
項目	評価内容						スコア	評価	
① CO2削減	CASBEE LR3 敷地外環境 1. 地球温暖化への配慮						3.5	4	
② みどり・ヒートアイランド対策									
生物環境の保全と創出	CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 1. 生物環境の保全と創出						2.0	3	
敷地内温熱環境の向上	CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 3. 2 敷地内温熱環境の向上						3.0		
温熱環境悪化の改善	CASBEE LR3 敷地外環境 2. 2 温熱環境悪化の改善						3.0		
③ 断熱性能	CASBEE LR1 エネルギー 1. 建物外皮の熱負荷抑制						5.0	5	
④ エネルギー消費性能	CASBEE LR1 エネルギー 3. 設備システムの効率化						3.4	3	
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE LR1 エネルギー 2. 自然エネルギー利用						3.0	—	
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。						報告する 報告しない	報告しない	
その他									
先進的技術の導入	技術の名称				考慮事項				
特に配慮した事項									